

本県におけるおうとうの栽培特性

〔要約〕 おうとう「高砂」は「佐藤錦」に比べ、果実の大きさはやや小さいものの収量が多く、また成熟も早いため、栽培に適した品種である。

長崎県果樹試験場・落葉果樹科

専門

栽培

対象

果樹類

分類

指導

平成5年度長崎県果樹試験場業務報告

〔背景・ねらい〕

これまで本県ではおうとうの栽培事例はほとんどなく、その栽培性は不明な点が多かった。そこで、屋根かけハウスを使って栽培に適した品種を選定した。

〔成果の内容・特徴〕

- ①「高砂」は「佐藤錦」に比べ、展葉期、開花期が5～7日早く、17日程度成熟期が早い。
- ②花粉の発芽率、結実率とも「佐藤錦」より「高砂」が優れている。
- ③「高砂」は収量が多く、糖度も高い。反面、果実がやや小さく、種子が大きい。

〔成果の活用面・留意点〕

- ①おうとうを導入する場合、単一品種のみでは結実率が悪くなるので、必ず複数の品種を入れる。
- ②収穫時期に降雨があると裂果するので、屋根かけ栽培とする。

[具体的データ]

表1 生育相調査

(月・日)

品 種	展葉期	開 花 期			成 熟 期
		始め	盛期	終り	
高 砂	4. 5	3.27	4.14	4.22	5.25~6. 4
佐藤錦	4.12	4. 2	4.19	4.24	6.17

表2 花粉の発芽率と結実率 (%)

品 種	花粉発芽率	結実率
高 砂	40.2	18.7
佐藤錦	21.1	2.5
ナポレオン	47.5	

表3 収量及び果実品質

品 種	収 量 ² (g)	果実重 (g)	種子重 (g)	糖 度	酸含量 (g/100ml)
高 砂	25,191	4.79	0.41	16.6	1.16
佐藤錦	1,685	6.74	0.26	15.2	0.94

1 樹当たり収量

[その他]

研究課題名：特定果樹の栽培に関する試験

予算区分：県単

研究期間：平成5年（昭和58年～）

研究担当者：林田誠剛，森田 昭

既発表論文等：なし

残された問題点：結実率の向上，初期収量確保のための栽培法の検討